

*学術的観点から歴史的事実をありのままに表現するため、一部に現代の差別的表現が含まれている場合があります。本誌における氏名・所属等は2019年度時点のものです。最新の情報は公式WebサイトおよびSNSをご覧ください。

[公式Webサイト]

日本常民文化研究所 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

非文字資料研究センター <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

国際常民文化研究機構 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

[公式SNS]

Facebook <https://www.facebook.com/jomin.kanagawa.univ/>

Twitter https://twitter.com/jomin_official/

編集後記

『神奈川大学日本常民文化研究所年報2019』をお届けいたします。日頃より、日本常民文化研究所（以下、常民研）の研究活動にご協力いただいている皆さまには、所員・事務局員一同、心より感謝申し上げます。常民研の年報としては、本年度で第6号目の刊行となります。

2019年度も、多岐にわたる研究活動や国際交流、学内外でのアウトリーチ活動が展開されました。研究活動としては、継続的に取り組んでまいりました共同研究4件に加え、常民文化研究の中心的課題として衣食住の営みに着目した「布の製作と利用に関する総合的研究」、「便所の歴史・民俗に関する総合的研究」が新たに創設されました。

常民文化研究講座・国際研究フォーラムとしては第23回「交差する日本農村研究——アチック・ミュージアムとジョン・エンブリー」が開催され、大変有意義な研究フォーラムとなりました。「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」は最終年度を迎え、研究成果の取りまとめが進んでいます。国際常民文化研究機構の共同研究（奨励）「昭和戦前期の青年層における民俗学の受容・活用についての研究」では、研究成果報告として第6回共同研究フォーラムの開催、および調査報告第28集が刊行されました。

また本年度をもちまして、精力的な民俗学研究と国際的な教育研究活動を展開されてきた佐野賢治所長が退任の運びとなりました。常民研における佐野所長の功績は非常に大きく、近年では創立100周年記念事業や研究体制の再構築などに尽力されました。今後のご活動にも期待を寄せつつ、心よりの敬意を表したく存じます。

こうした常民研の活動を内外に発信する方法として、従来の刊行物やWebサイトはもとより、メールマガジン【常民研e-News】を定期的に配信する体制が整いました。以後もFacebook・Twitter等のSNSを用いた情報発信を展開しています。

今後とも、常民研の活動にご支援、ご協力をたまわりますよう、お願い申し上げます。

日本常民文化研究所
須崎 文代

[編集]

須崎 文代 越智 信也 木村 美江

神奈川大学日本常民文化研究所 年報 2019

発 行 日	2021 年 3 月 3 日
編集・発行	神奈川大学日本常民文化研究所 〒 221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 TEL 045-481-5661 (代表) http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/
印 刷	株式会社精興社
雑誌コード	ISSN 2189-9509

著作権者の文書による許諾がないかぎり、法律が認める場合を除き、本書の全部もしくは一部を複製すること、あるいは送信公開することを禁じます。